



# untitled

<http://www.kana-pie.com>

「untitled」 肩書や、形にとらわれず、自由に広がりのある活動を目指して・・・

## 神奈川県社会福祉法人経営青年会通信

### contents

活動報告	－宿泊研修会	・・・・・・	1・2面
	－関東甲信越ブロック経営青年会 総会・研修会	・・・・・・	2・3面
	－保育研究委員会研修会、会員交流会、令和4年度第2回総会、研修会	・・・・・・	3・4面
法人紹介	－青年会所属法人のご紹介 社会福祉法人伸生会	・・・・・・	5・6面
お知らせ	－今後の予定・新入会員紹介・会員数	・・・・・・	6面

## 活動報告

### 宿泊研修会

令和4年11月28日・29日に、会員の資質向上と、より良い地域福祉の実現に向けた情報交換を目的とした宿泊研修を開催しました。

さて、現在、新型コロナウイルスの対応や物価高騰、人材不足がどの業界でも大きな影響を与えています。この状況下でも私たち経営者はご利用者や職員さんに安心・安全な環境を提供する責任があります。

そこで今年度は私たち経営青年会の真壁会長と田代直前会長をお招きして、『社会福祉法人のこれからと神奈川の展望』をテーマに講演頂きました。

まずは、「事業の変遷」と題してお話を伺いました。真壁会長は大学卒業後、一般企業に就職した後、ケアハウス立上げに伴って介護業界へ入られました。その後、保育事業や放課後児童クラブの経営を開始され、2023年には障害児複合施設が開所予定となっています。

続いて、田代直前会長は専門学校卒業後、一般企業に就職。時代背景もあり特養を建設することとなり、介護業界へ参入。その後、放課後デイサービスの運営開始や他の社会福祉法人との合併を経て、2021年に就労B型事業所の運営を開始されています。

次に「経営論」についてお話を頂き、真壁会長は、「ルールの中でいかに持っているものを使って経営するかだ」と思う。役所・仕事仲間としっかりとコミュニケーションを取ることで信頼を得て仕事がしやすくなる。立場・年齢関係なく素直に『教えて』と言うことが大事。話が通じるようになり、その内、色々な方面から話ができるようになる」と仰いました。

田代直前会長は、「失敗したこともあるし、うまくいかなかったこともたくさんある。ただ、負けるにしても『負け方』があると思って



講師

いる。負けてしまった時、先輩に『同じ土俵にのって勝負をしたらダメだ。自分の土俵、自分の得意なところをもってきて勝負しろ』と言われた。それからはそうやって戦うようにしている」と仰いました。

では、「ズバリ！今後、社会福祉法人はどうなっていくのか？」の問いに対し、田代直前会長は「社会福祉法人の在り方は、国の旗振り次第で地域に残るのはいくつかしかない。しかし、社会福祉法人の売買はできないため、国は連携法人を進めていると思う。」と仰っていました。



研修風景

また真壁会長も、「課税法人を取り入れて売買できるようにしていてもいいのではないかと感じている。地域のニーズにあった運営をしている法人が残るようになる」と話されていました。

質疑応答では、「人集めのコツはなんですか？」とあり、真壁会長は、「本部事務所で保育士資格をもった職員が講師となり、保育士試験対策スクールを無料で行っている。合格者 11 名の内 1 名が就職につながっている。今後、ここから就職に繋がれば良いと考えている」と仰っていました。

また、「運営を考える人材を現場から出していくコツはありますか？」とあり、田代直前会長は、「部門ごとに役職をつけ運営を任せている。内部や民間企業でマネージャー経験があるような人材を抜擢する。内外部から抜擢するためには、立場にあった給与を支給する必要がある。そのためには、理事長クラスの給料をしっかりと確保できる経営が必要」と仰っていました。

今回の宿泊研修で学んだ経営論や考え方・手法について、しっかりと自分自身の立場・環境・地域に置き換え、確実に実行していくことで、社会福祉法人の役割・責任を果たすことができると感じました。これからも地域福祉の担い手として、地域福祉の維持・向上に鋭意努力しなくてはならないことを再確認することができる、とても素晴らしい研修でした。

また、講師を引き受けてくださった、真壁会長、田代直前会長に心から感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

【研修委員 大畑直】

## 関東甲信越静ブロック経営青年会 総会・研修会

開催されました。コロナ禍で 2 年ぶりの集合開催となり全体約 90 名(神奈川 11 名)の参加となりました。吉田福社会・木村貴明新潟県経営青年会会長はコロナ禍で開催困難もようやく状況が好転し開催できたこと、新型コロナウイルス感染症の第 5 類移行を踏まえ青年会のつながりの重要性を発信されました。

来賓の花角新潟県知事代理福祉保険渋谷課長、新潟県社会福祉協議会竹内会長、新潟県社会福祉法人経営者会平澤会長、全国社会福祉法人経営青年会梅野会長はコロナ禍、少子高齢化、物価上昇、ウクライナ情勢に触れ、アフターコロナに向け各分野、団体の垣根を超えて協力した取り組みに期待感を示されました。

講演 I は株式会社感性リサーチ代表取締役社長黒川伊保子氏による

令和 5 年 2 月 9、10 日にグローバルビュー新潟にて本総会・研修会が



黒川氏

「感性コミュニケーション」でした。人口知能と人の対話の研究から人間の脳を電気回路装置として見立てコミュニケーションの本質に迫る内容でした。人間関係をネットワークシステムとして捉え男性と女性はとっさに違う脳神経回路を選ぶ組み合わせであり、フルスペックでは男女とも全く同じ装置ですが脳はフルスペックでは使うことはないということでした。「そういえば」で過去や未来に飛んできっかけをつくるのは圧倒的男性、「今できること」に集中してできるだけ早く動き出すのは圧倒的男性とし、対話は二種類で共感型（過去、未来）と問題解決型（今）であり、対話の奥義として人の話は共感で聞き、自分の話は結論から話すと良いことを教わりました。Google 社内調査で近い将来、問題解決型タスクはAIに奪われるため人間に残るのは共感型タスクとされており、見つめ、心を寄せ共感し、「ことのいきさつ」を感情で反芻して様々な気付きを得る共感型センスはAIには決して手に入れられないものとされ、これを踏まえた人材を中心に施設運営を考えたいと思いました。



大平氏

講演Ⅱは新潟県酒造組合会長大平俊治氏による「新潟清酒の過去・現在・未来」でした。米の液化が酒造であり最も複雑な工程を経て出来る感動を感じて携わりましたがコロナ禍で飲みに行くのは不要不急とされ事業者は半分程度にまで落ち込んで苦しんでいました。ワイン酒蔵と比べると桁違いに日本酒蔵は少なくワインには競争で敗北してきました。日本酒を高級志向に転換し健康に美味しいものをゆっくり飲むものとして位置づけをシフトし米から作られることや歴史があることが支持されたようです。業界内で規模は小さくとも個性と工夫で地位を確立していく過程を教わることができました。



高見氏

2日目は講演Ⅲ「長岡花火と長岡のまちづくり」一般社団法人「花火財団」理事長高見真二氏、長岡の精神性は「常在戦場」「米百票」「市民協働」「進取」など幾多の物語があり、「長岡花火」は慰霊・復興・平和への祈り、豊かさの中の遊び心、美意識を表現したものでした。まちづくりの課題は人手不足が主であり安心安全で暮らしやすく社会変化に対応できる産業と人材の育成や女性活躍と長岡らしさを発揮することが重要とされました。今回3講演は大変貴重な内容となっております柔軟に取り組むための今後の参考となりました。

【総務広報委員 広嶋稔之】

## 保育研究委員会研修会

令和5年2月20日（月）に、茅ヶ崎市の市民文化会館第2会議室にて令和4年度保育研究委員会研修会を開催致しました。

当日は13名の方にご参加頂きました。講師には社会福祉法人愛川舜寿会馬場拓也氏をお招きし、「インクルーシブ保育」についてご講演頂きました。

インクルーシブ保育とは、子どもの年齢・国籍・障害の有無などの違いをすべて受け入れる教育法のことです。講義ではまず、ご自身の経営する特別養護老人ホームが地域に開かれた場所になるまでの体験談をお話し頂き、インクルーシブの考え方について学びました。その後、カミヤト凸凹保育園+plusでの保育実践を取り上げ、インクルーシブ保育について学びました。そこで生活する実際の子どもたちの姿やエピソード、

環境を見ることで、具体的なイメージが湧きやすく、「実際に自分の園でもやってみようと思った」「参考になった」などの感想を頂きました。最後になりますが、今回ご参加頂いた委員の皆様、施設の職員様、講演して下さいました馬場氏に深くお礼を申し上げます。

【保育研究委員会 渡邊成人】

## 会員交流会

令和5年1月13日ホテルプラム横浜にて会員交流会を開催しました。

今年の参加は、17法人、21名の出席でした。新規入会の方にも多数ご参加いただき、多くの会員同士が交流を深めることができ、大変有意義な時間を過ごすことができました。来年も皆様と一緒できることを楽しみにしています。



【総務広報委員 石川友紀】

## 令和4年度第2回総会

令和5年3月7日、崎陽軒本店ビル会議室において、令和4年度第2回神奈川県社会福祉法人経営青年会の総会が開催されました。

会長代行を務める田代前会長の挨拶より始まり、会員数101名、出席27名、委任状33件、合計60票過半数を満たし、会が成立することが確認されました。

令和4年度補正予算案、令和5年度事業計画案・収支予算案、役員改選について賛成多数により承認、また、経営青年会OB会運営要綱も議論され、蓬萊会大塚議長の進行のもと滞りなく終了しました。



総会の様子

【総務広報委員 五十嵐大輔】

## 総会研修会

タニタ創業家が語る事業承継について、ヘルスケアオンライン株式会社代表取締役の谷田昭吾氏が講演しました。

タニタはライター、シガレットケース、トースター、ヘルスメーターを柱にしていたが、価格競争などの理由で経営危機に陥り、2代目の谷田大輔氏が事業承継されました。

大輔氏は創業者の話をよく聞く個性があり、周囲との話し合いを経て、体重計のシェアの拡大に舵を切りました。タニタは強みを見出し、世界初の家庭用体脂肪計の開発や社員食堂などヘルスケア分野へ進出し、世界有数の企業に成長しました。強みを見出すことが事業承継や成功のカギであり、自己認識力が優れたリーダーが必要です。価値観の承継も重要であり、自身の価値観を大切に、後継者に伝えることが大切だと語られました。



研修会

【研修委員 関勝之】

## 法人紹介

### 社会福祉法人 伸生会 ～Happy&Enjoy♪Life&Work～

#### 【法人の紹介】

伸生会は平塚市で一番にできた社会福祉法人として昭和44年8月に平塚養護老人ホームを開設しました。その後、平塚特別養護老人ホーム等、高齢者福祉を中心に事業展開を続け、現在では養護老人ホーム、特別養護老人ホームの他にデイサービス3事業所、居宅介護支援事業所2事業所、包括支援センター2事業所を運営しています。また、令和3年より平塚市の委託を受け、新たに学童保育の運営も開始しました。さらに令和5年4月からは、学童3か所に加え、平塚市に隣接する大磯町で新たに包括支援センター運営を開始することが決定しています。



ケアセンターまつがおか

伸生会では「福祉」＝「多くの人の幸せ」と考え、ご利用者・ご家族・地域の方々・そして、伸生会で一生懸命働いてくださっている職員の皆様が可能な限り幸せと感ずることが「福祉」だと考えています。この「多くの人の幸せ」を実現するために、伸生会の理念は、『Happy&Enjoy♪Life&Work』『信頼』『共生』『喜び楽しむ』としています。私たちは仕事でもプライベートでも常に人と人が関わります。人が幸せを感じるためには信頼関係を構築して、共に協力し合い生活を送ることが大切であり、仕事でもプライベートでも喜び楽しむことでより良い人生になると考えています。

#### 【施設の紹介】

伸生会には、行政からの措置で入所となる“平塚養護老人ホーム”ユニット型よりも安価に利用できる従来型特養である“平塚特別養護老人ホーム”この2つの入所施設にはショートステイも併設されています。その他に、特色の異なるデイサービスが3か所あります。運動に特化した“うんどう・デイ・まつがおか”認知症支援に特化した“認知症対応型通所介護いきいき”要支援から要介護の方まで幅広く受け



平塚養護老人ホーム

入れができる環境が整備されている“伸生会デイケアセンター”そして、地域の相談窓口である包括支援センターが2か所。さらに、居宅介護支援事業所も2か所運営していますので、伸生会でワンストップの支援をさせていただくことが可能となっています。同じ法人内だからこそできる密な情報共有・速やかな連携でご利用者・ご家族の安心・安全な生活を支援させていただいています。

### 【ひと言】

伸生会は平塚市内で歴史ある法人としてご利用者、ご家族、地域の方々に寄り添い、地域福祉の維持・向上に努めてきました。これまで、伸生会を利用したいと言ってくださるたくさんのご利用者・ご家族の皆様。関係法人・事業所の皆様。地域の皆様。そして、伸生会に勤めてくださっているたくさんの職員さん。本当に多くの方々に支えていただき、今の伸生会があります。これからも、伸生会を支えてくださる方々を笑顔にするため、「多くの人々の幸せ」のために職員一丸となって日々精進してまいります。



【社会福祉法人伸生会 大畑美歩】

## お知らせ

### 今後の予定

詳細については、案内書、またはホームページでご確認ください。

開催日	テーマ等	場所等
令和5年6月22日	第1回総会 研修会	崎陽軒

### 新入会員紹介

新たに入会された新会員を紹介します。

倉下学様（道志会）      川村弘貴様（道志会）      田中美香様（孝楽会）  
 田戸和義様（喜寿福祉会）      渡部真寿美様（喜寿福祉会）      栗田美和子様（栗山会）

### 会員状況

会員数 101名    法人数 64法人（令和5年3月31日現在）

### 編集後記

皆様、お忙しいところ広報誌の原稿作成にご協力いただきありがとうございました。No.49号から編集に携わり、今回で最後となりました。ここまで続けてこられたのも皆様の温かいご支援のおかげです。長い間ありがとうございました。青年会での活動はまだ続きますので、今後ともよろしくお願ひします。  
 (Yuki Ishikawa)

発行／神奈川県社会福祉法人経営青年会

連絡先／〒221-0825

横浜市神奈川区反町3-17-2

神奈川県社会福祉センター7階

(福) 神奈川県社会福祉協議会

福祉サービス推進部

電話：045-534-5662

Fax：045-312-6302